

4 年 1 組

わたしの火 ～子どもたちが見つめているもの～



ずっと見ていたいな

舞切り式火起こし器を使って、火起こしに挑戦し続ける子どもたち。しかし何度挑戦しても、なかなかうまく火種が作れずにいるグループがほとんどでした。子どもたちと話し合う中で、原因は火起こし器の回転ではないかという結論になりました。どうしたら力が火起こし器にうまく伝わり、強い回転ができるのか考えていきました。するとEさんが「Sさんはすぐに火起こしができるから、やり方を見たいです」とみんなに伝えました。子どもたちはSさんの火起こし器に注目し始めました。Sさんの火起こし器は自作の物で、すぐに火を起すことができます。自分たちが作った物と見比べると、紐の長さや回し車の大きさ、重さなどが違うことに気づいていきました。とくに、重さの違いに着目した子どもたちは、さっそく回し車の改良に取り掛かりました。回し車が2つだったものを3つに増やして重さを増やしたり、大きくしたりし、「回しやすくなった!」と手ごたえを感じ始めた子どもたち。試しに回してみると、勢いよくビュンビュン周り、モクモクと煙が立ち上がりました。火起こし器を止めたあとも煙が立っていることを確認し、火種がようやくできたのです。



「ねえ見て!火種できたよ!」と嬉しそうに話してくれる子どもたち。そんな姿を見て、担任の私もとても嬉しい気持ちになりました。何度やってもうまくいかない、もう嫌になってしまうのではないかと、そんな不安を抱いていた私でしたが、あきらめずに汗を流しながら火起こし器を回し、満面の笑みで語りかけてくれる子どもたちに心を打たれました。

そして火起こし本番では、火種を上手につくることができ、たくさんのグループが火起こしを成功させることができました。起こした火でメスティンを使って料理をしました。炊き込みご飯や卵焼き、パスタなどいろいろな料理に挑戦し、作った料理を友だちと囲んで食べました。Yさんは自分が起こした火を見て、「この火はずっと見ていたいな」とつぶやきました。しかし、せっかく起こした火がうまく育てられずにすぐに消えてしまいました。この日のYさんのふり返りにはこう書かれていました。

初めて自分で火を起すことができました。うれしすぎました。この火は絶対消さないぞと思っていたけど、消えてしまってすごく残念でした。自分で起こした火はきれいだったからずっと見ていたかったです。

頑張ってようやく起こした火が消えてしまい、残念な思いをしたYさんがいました。ずっと見ていたかった火。目の前に火があることの喜び。自分が起こした火をどこかに灯しておくことはできないのか。そんなことを子どもたちと話していたら、オイルランタンというものがあることを知りました。芯にオイルを浸すとそこに火が灯されるオイルランタンに子どもたちの興味が惹かれていくのでした。

子どもたちはオイルランタンづくりに取り掛かりました。ペンチを使って針金を加工して、芯にする布に巻き付けました。びんの中で立つように調節してオイルに浸したら完成です。さっそく自分が作ったオイルランタンに今回は着火ライターで試しに火を灯してみました。その時の振り返りを紹介します。



- ・二等辺三角形みたいな形ができました。火起こしの火はきれいだけど、ビンにつけた火の方が安心感があってリラックスできました。(Hさん)
- ・上に細長く火がついていてきれいな形で長く火がついて良かったです。火がぼかぼかしてずっと見ていたくなりました。(Aさん)
- ・はじめは火が大きかったけど、しばらくするとぼんやりときれいになりました。とくべつな感じ。ずっと見ていたくなりました。(Rさん)
- ・あたたかみを感じました。もっといろんなやつ(芯)でためしてみたい。(Yさん)



子どもたちは、苦勞して起こした火を特別に感じていました。その火が目の前にある喜びや温かみをオイルランタンを通して感じていました。またHさんやAさんは火の形や大きさに注目していました。いろいろな芯で試してみたいというYさんの願いもあり、今度はティッシュペーパーや綿棒、麻紐などオイルが浸透しやすい材を自分で選んで、作りました。大きな火を灯す子や整った形の三角形の火を灯す子など、自分が灯したい火の形や大きさにこだわって、オイルランタンにわたしだけの火を灯していきました。そんな中Yさんは、「ぼくはやっぱり小さい火が好きだな」と振り返りました。びんの中に灯す火であったり、暗い場所で見たいと言っていたYさんにとって、火起こしの火とは違った見方でオイルランタンとしての火を見つめていたのでしょう。子どもたちは火を通して、仲間と協力したり、火を囲んだりするその場や雰囲気を感じていたのではないのでしょうか。

Nさんはオイルランタンに灯した火を見つめながら、「やっぱり自分が起こした火を灯したい。」と言いました。火起こしに挑戦したい子どもたちの願いを感じ、雪が積もる中ででしたが火起こしに挑戦しました。まずはSさんの火起こしをみんなで見ることにしました。Sさんが火起こし器を回すとすぐに煙が立ち上がりました。「もう煙が出てきた!」と手際の良さに感心する子どもたち。火起こし器を止めた後も煙が出続けているのを確認し、火種ができました。それを慌てずにやさしく麻紐に包み、空気を一生懸命送ります。もくもくと煙が立ち上ると一気に火が起きました。枯れ葉や細い枝などを入れて火を大きくし、太い薪に火を移して安定させました。Sさんたちのグループを見ていた子どもたちは、「火種ができて慌てないで丁寧にやっ



ていてすごい」「火起こしする前にしっかり準備できているからスムーズなんだね」など、友だちの姿から学んでいました。その様子を見た後、子どもたちはそれぞれのグループに分かれ火起こしに挑戦しました。Hさんは火種ができたことがあっても慌ててしまい火が起きるところまでいきませんでしたが、Sさんの火起こしを参考にし、Hさんのグループでは初めて火を起こすことに成功させることができました。「やっと火起こしができたよ」と満面の笑みで語りかけるHさん。今までの苦勞が実った瞬間でした。またオイルランタンに火を灯したYさんは「火起こしの火はやっぱり特別」とオイルランタンの火をずっと見つめている姿がありました。

また今までメスティンを使っていろいろな料理に挑戦してきましたが、この日は寒かったのでインスタントラーメンやポトフなど体が温まるものを子どもたちは作っていました。「寒いけど、火があると温まるね」と言ったAさん。火を一か所に集めてみんなで火を囲んだとき、「火ってみんなを幸せにするんだね」と言ったGさん。仲間と協力して調理したり、火を囲んだりしたこの場や雰囲気を感じている子どもたち。この冬は、“みんなを幸せにする火”を子どもたちと共に見つめていきたいです。

